

海外生活 エッセー

ニューヨーク事務所

眠らない街の象徴、タイムズスクエア

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 廣澤 由貴 (宮城県派遣)

メトロポリタンミュージアムや自由の女神、ヤンキーススタジアムと、数えきれないほどの観光スポットのあるニューヨーク。その中の1つのタイムズスクエアは、実はかつて治安の悪いエリアだったこともあります。今回は、そんなタイムズスクエアのルーツから現在を辿ります。



ネオン輝くタイムズスクエア

→ 名称の由来

1904年にニューヨーク・タイムズの本社ビルが現在のタイムズスクエアの一角に移転し、これを受けた当時の市長がその一帯を「タイムズスクエア」という名称に変更しました。1913年に同社は再び別の場所へ移転しましたが、地名はそのまま残りました。1920年代にかけてタイムズスクエア周辺には劇場やホテルが集まり急速に発展していきます。

→ 治安の悪化

しかしその後の世界恐慌により一帯は風俗店などが乱

立し、一気に雰囲気の良いエリアに変貌してしまいました。さらに、第二次世界大戦や1970年代のアメリカの経済危機を受け、タイムズスクエア一帯は麻薬の密売や路上犯罪が横行する治安の悪いエリアとして有名になってしまいました。

→ 復活、再び観光名所へ

90年代に入り、当時のルドルフ・ジュリアーニ市長がこのエリアをエンターテインメントの街として再興させようと、周辺のビルに大きくて明るいネオンサインの設置を義務付けました。ビルの1階には1つ以上の電飾サインをつけること、日没から深夜1時までには電飾を消してはならない…など、行政が派手な電飾看板を奨励する前代未聞のルールです。風俗店等を撤退させる区画整理も併せて行い犯罪率は劇的に下がりました。ネオン煌めくタイムズスクエアはエンターテインメントの街の象徴として観光客が多く訪れ、安心して楽しめるエリアへと復活を遂げたのです。

タイムズスクエアで行われる毎年恒例の年越しカウントダウン。今年もオンライン開催となるそうです。ニューヨークは日本から14時間遅れて新年を迎えるので、日本時間の元日午後2時、こたつに入ってグローバルに新年を祝う絶好のチャンスかもしれません。



左側の青白く光っている場所がタイムズスクエアエリア